

# いのちと地域を守る



## 津波高22m想定のお知・堀切小

### 週3回持久走 走れる上履き

週3回、2時間目の後の休時間、教員も参加して5分間汗を流す。校舎から海まで約700m。海抜は5m。一帯は2007年の宝水地震、1804年の安政地震で、6mの津波襲撃されたという記録が残っている。

# 逃げる能力 磨き掛ける

2時間目の授業が終わると、次々に校庭に集まる児童たち。準備体操の後、力強いウォーミングアップを繰り返す。愛知県田原市の堀切小、児童113人は今年4月に年間を通じて持久走トレーニングを取り組んでいる。月、水、木の3日、2時間目の後の休時間、教員も参加して5分間汗を流す。校舎から海まで約700m。海抜は5m。一帯は2007年の宝水地震、1804年の安政地震で、6mの津波襲撃されたという記録が残っている。

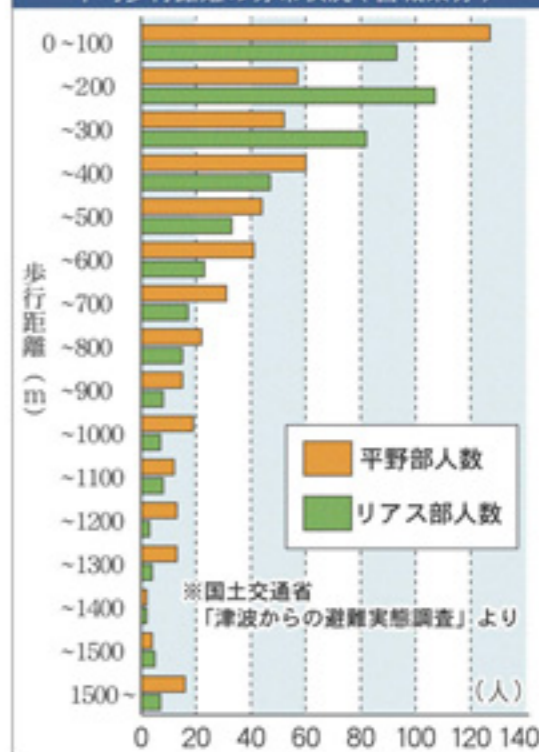
## 震災教訓 訓練にどう生かす

# 避難先より近く高く

東日本大震災では避難先や逃げる途中で、たくさんの住民が大津波の犠牲になった。将来の災害に備えて避難の場所、経路、方法をどうすればいいのか。震災の教訓を避難訓練などに生かす試みが各地で始まっている。

「防災の日」の1日、岩沼市役所で住民約4700人を対象にした津波避難訓練「カケアガレ！日本」(市主催、東北大学防災科学国際研究所共催)が行われた。避難先には、指定避難場所ではない仙台東部道路と矢野目ハイパスも選んだ。いずれも沿岸部では敷設が完了していない。避難先には指定避難場所ではない仙台東部道路と矢野目ハイパスも選んだ。いずれも沿岸部では敷設が完了していない。避難先には指定避難場所ではない仙台東部道路と矢野目ハイパスも選んだ。いずれも沿岸部では敷設が完了していない。

津波からの避難時における平均歩行距離の分布状況(宮城県分)



東北工大准教授 福留 邦洋。阪神・淡路大震災(1995年)、新潟県中越地震(2004年)などの被災地で調査・研究を行い、自治体や集落の復興ビジョンや復興計画づくりに関わってきた。

災害が発生すると、建物被害などに伴い大規模な人口変化、人口移動が発生する。ただし、大きく影響している。阪神・淡路大震災では、木造密集市街地で最大な被害となったが、所有形態でも、自己所有の住宅(持ち家)・持ち家の割合が約15%だった。

地域社会の維持 模索続く。5年後の現地再建率・回復率は、持ち家約90%、賃貸約10%だった。復興は、持ち家約90%、賃貸約10%だった。復興は、持ち家約90%、賃貸約10%だった。

若年層のいる市街地を中心に集落が維持されるだけでなく、人のつながりも大切。被災地では当時の居住者が減った一方、新たな住民が移住した。この影響で、被災地の住居地は過疎化が進んでいる。新築中地帯の被災地では、震災前は約20年分進んだという声も聞かれる。

告知板。25日に東日本大震災の研究成果に関する講演会。25日午後1時半から、仙台市青葉区の市戦災復興記念館。『わたしたちの安全・安心のために』と題し、東北大学の研究者4人が講演。テーマは巨大地震の発生メカニズム、巨大地震の海底観測、津波被害とその教訓、海洋の放射能汚染、講演者による総合的議論もある。



三陸育ち「教え」生きる(福島・新地)。福島県新地町の津波と海水浴場近くで旅館朝日館のおかみをしてきた村上美保子さん(63)は本震直後、近所に避難を促し、自らも高台へ避難した。幼い時期を三陸地方で過ごし、大人たちから津波の破壊力や怖さを教え込まれて育った。

伝える。2011.3.11。津波は沿岸部の建物のみならず、福島県新地町役場周辺にはがれきが散らばった。右上は水に漬かったJR新地駅の遺構。2011年3月11日(新地町提供)。

## いち早く危機察知 率先避難

取り合ってくれません。避難させるための口実で「町役場まで車で送ってほしい」と頼みかけた。近所の人たちに避難を呼びかけた後、位階(いはい)と黄重荷(きんじょう)を持って、車を走らせました。